東北ヘルプ　ニュースレター　あいさつとして

主の平安

いつも「被災支援ネットワーク・東北ヘルプ」のために、お祈りとご支援をいただき感謝いたします。夏のごあいさつを申し上げます。また各地で豪雨災害に遭われた皆様のために主の支えがありますようお祈りしております。

この夏に帰省をされた方も多くおられたと思います。お休みをご家族と過ごし、また故郷を訪れる方も多くいらっしゃることでしょう。最近、「ふるさと」の曲を児童養護施設の子どもたちと一緒にブラスバンドで演奏する機会がありました。その海沿いの施設で演奏しながら、かつて東北の沿岸部の避難所で、その後の仮設住宅、公営住宅の集会所で、この歌を皆さんと一緒に歌ったことを思い出していました。夏の「おかえりなさい」という浜通りのスーパーの“のぼり”を懐かしく思います。当時、私は支援者という立場で、被災地を訪ね、また自分の教会に戻る生活をしていました。震災後、変わってしまったふるさとで、生きていく人々の眼差しと、また様々な想いの中で、ふるさとを離れた方、離れざるを得なかった方、そこに戻るか新しい土地で暮らしていくか悩んで、それぞれに決断された方の胸の内を、ただ私は聴いて、言葉にならない思いを共有して、祈っていました。

現在、私は直接的な支援の働きからは離れて、必要とされる働きに仕えています。東北からは離れた今も、現場の声を伝え続けるこの東北ヘルプの働きが、私を震災後を生きる人々とつないでくれ、またこの働きを覚えてくださる皆様とつなげてくれています。今回のニュースレターを読む中で、宮城で、福島で、時間が経過して状況が変わったことと、変わらない矛盾だらけの現実が存在するということを同時にあらためて感じ、正直、重たい気持ちにさせられました。しかし、それが現実を見つめるということであり、今という時代を生きるキリスト者として、主にある希望を信じる者として、必要とされることであると思い返しています。私たちが主を賛美しつつ、できる限りのことを心を尽くして行い、未来の人につないでいけますように。

過去と未来をつなぐために、私たちは今、それぞれの場所に置かれているということを実感しています。今なお、今だからこそ必要とされている働きがこの場所にあります。

皆様のお祈りとまたご支援とを引き続き、どうぞお願いいたします。このニュースレターが人と人とをつないでいく助けになり、祈りがつながって、また「あの日」よりも前の世界と未来の世界とをつないでいく復興の助けとなりますように。

「希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるように。」（ローマの信徒への手紙　15 章 13 節）

今を、これからの未来を生きるすべての人が、主の希望の内に歩んでいけますように願っています。

感謝と希望と共に、主の祝福を心よりお祈りいたします。

主にあって　　2023/8/12

東北ヘルプ監事　本村大輔

（救世軍　西日本連隊長）